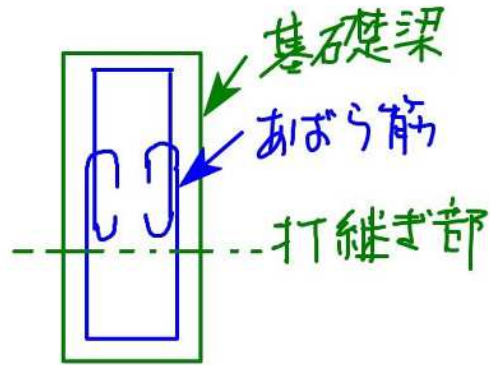
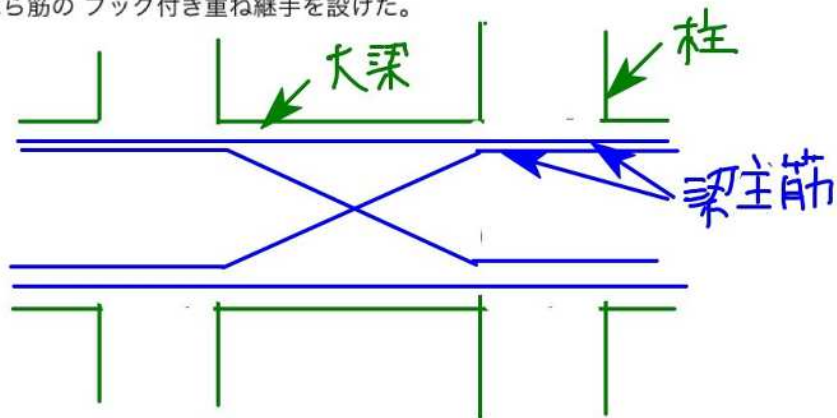


一級R04

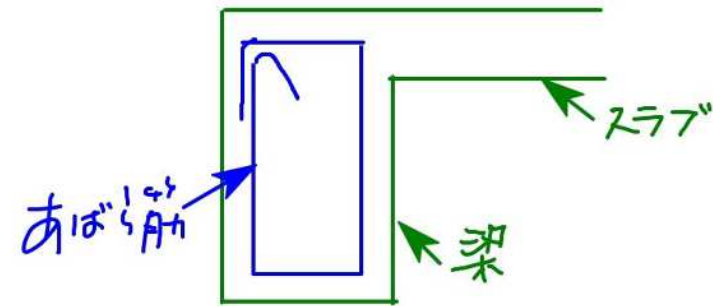
(No.11) 図に示す鉄筋コンクリート構造の配筋に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。ただし、図に記載のない鉄筋は適切に配筋されているものとする。



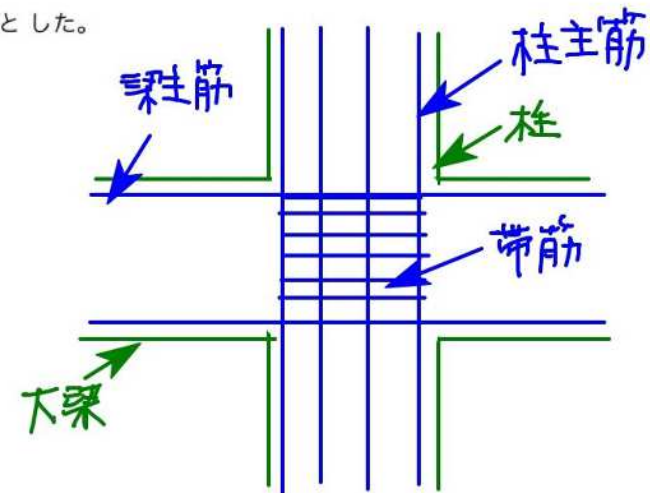
1. 断面内に打継ぎ部を設ける必要がある基礎梁において、必要な定着長さを確保したうえで、基礎梁の側面にあばら筋のフック付き重ね継手を設けた。



3. スパンが短い大梁の主筋の配筋において、梁断面の四隅以外の主筋を部材の全長にわたって対角線上に配置した。



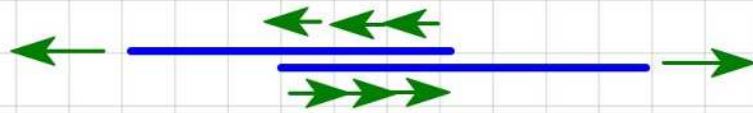
2. 片側にスラブが取り付けられた梁のあばら筋において、必要な余長を確保したうえで、あばら筋の末端の一端を90度フックとした。



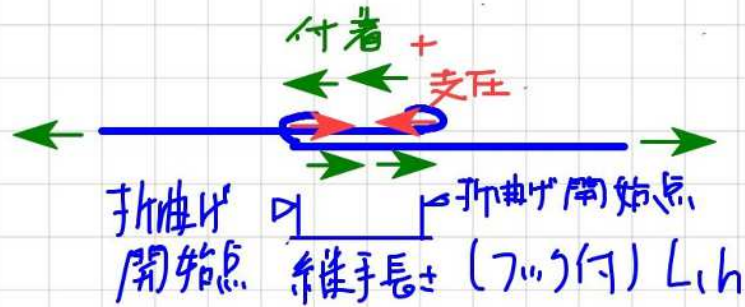
4. 柱梁接合部において、せん断補強筋比が0.3%相当となるように帯筋を配筋した。

○ 重ね継手

工=リットと鉄筋の付着



継手長さ (直線) L_1

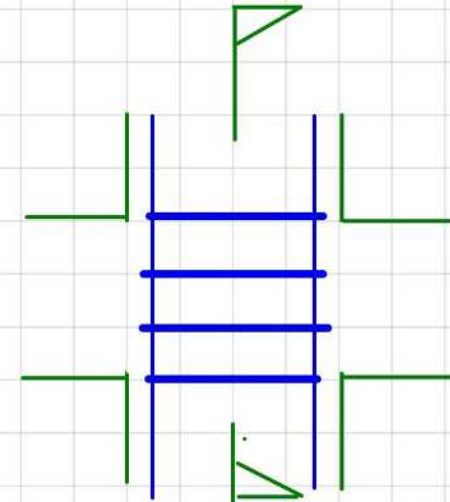
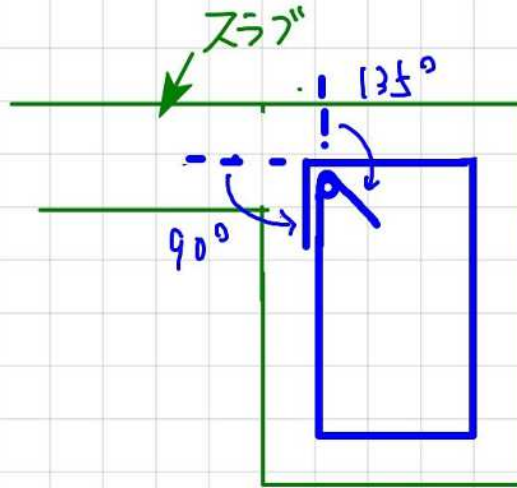
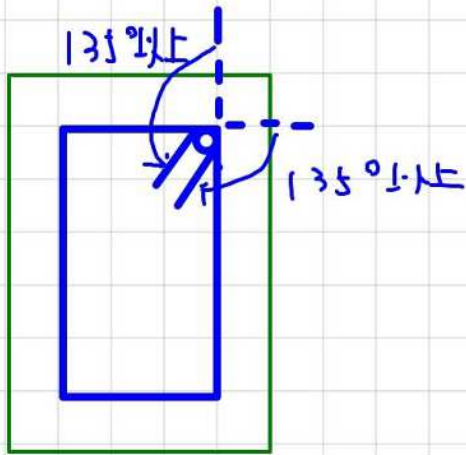


$$L_1 > L_1h$$

鉄筋強度 (大) \rightarrow 継手長さ (長)

工=リット強度 (大) \rightarrow 継手長さ (短)

○ あばら筋の形状

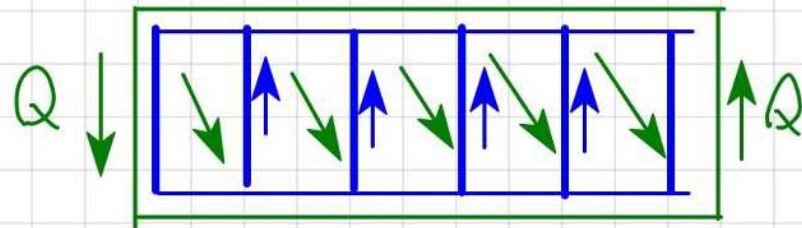
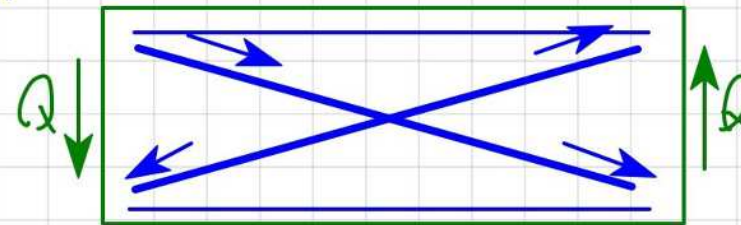


○ せん断補強筋比

$$= \frac{a_w}{Bx} \times 100 \geq 0.2\%$$



○ X形帯筋



コンクリートの圧縮
鉄筋の引張

鉄筋の圧縮
鉄筋の引張